

ホクコーダイロンゾル

■種類名：DCMU水和剤
 ■有効成分：DCMU50.0%
 ■PRTR法指定物質：DCMU [第1種]50.0%

■登録番号：第22908号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2011.03.16
 ■性状：白色水和性粘稠懸濁液体
 ■有効年限：3年
 ■包装：500ml x 20本

【特長】

- 1成分で、一年生のイネ科雑草および広葉雑草に高い効果を示す。
- 雑草発生前～雑草発生始期の処理により、高い効果を示す。
- ゾル化により、薬液の調製が容易となり、除草効果が向上した。

【適用内容】(2015年7月22日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地域	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量(mL)	希釈水量				
ばれいしょ	—	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前～始期)	100～200	100% % % % % % % % % %	1回	土壌散布	全域	1回
やまのいも			植付後萌芽前 (雑草発生前～始期(イネ科雑草3葉期まで))				1回		雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布
			生育期 (畦間処理:雑草生育期 (草丈15cm以下)) ただし、収穫60日前まで						
だいず			は種後出芽前 (雑草発生前)	150～200		1回	土壌散布		2回以内 (出芽前は1回以内、 生育期は1回以内)
			は種後出芽前 (雑草発生始期)	100～200		1回	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布		
			生育期 (畦間・株間処理:本葉5葉期以降、 雑草生育期(草丈15cm以下)) ただし、収穫30日前まで						
			は種後出芽前 (雑草発生前)	150～200		1回	土壌散布		
あずき			生育期 (畦間処理:雑草生育期 (草丈15cm以下)) ただし、収穫30日前まで	100～200		1回	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布		
			植付覆土後又は培土後 (雑草発生前)	160～200		1回	土壌散布		
さとうきび (春植又は夏植)			一年生雑草 多年生広葉雑草	植付覆土後又は培土後 (雑草発生始期)		100～150	2回以内		雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布
	生育期 (雑草生育期(草丈15cm以下)) ただし、収穫60日前まで								
萌芽前(雑草発生始期)	160～200	1回		土壌散布					
萌芽前(雑草発生前)									
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	雑草発生前～生育初期 (草丈15cm以下)	200～250	1回	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	全域 (北海道、九州を除く)	1回	

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	DCMUを含む農薬の総使用回数
				薬量(mL)	希釈水量				
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草発生前～生育初期 (草丈 20cm 以下)	1000 ～ 2000	100 リットル	3回 以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	—	3回以内
		ゼニゴケ	ゼニゴケ生育期	500～ 1000	100 ～ 200 リットル				

【効果・薬害等の注意】

- 本剤を所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布すること。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
- だいに使用する場合、以下のことに注意すること。
 - ◆ は種時には十分な種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
 - ◆ 畦間・株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用するとともに、噴口はできるだけ低くして本葉にかからないようにすること。
- あずきに使用する場合、以下のことに注意すること。
 - ◆ は種時には土壌を細かく砕いて、均一厚目に十分な覆土を行うとともに、は種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
 - ◆ 畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して作物にかからないようにすること。
- さとうきびの新植後、分けつが始まる頃に薬剤がかかると薬害が発生することがあるので、さとうきびにかからないように注意して散布すること。
- やまのいもの畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して、作物にかからないようにすること。
- 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に薬害が生ずる恐れがあるので注意すること。
- 散布薬液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に薬害が生ずることのないように十分注意して散布すること。
- 樹木等有用植物の根が分布していると思われる所では使用をさけること。
- 水田畔の雑草防除を目的として使用する場合、雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしないこと。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ◆ 水源池、養魚池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬液は必ず安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。